

歳時 世相篇

⑤ 【キャンプ】

イヌイットの夏の生活

岸上 伸啓(きしがみのぶひろ)

本館先端人類科学研究部

季節ごとに移動を繰り返していた極北の狩猟民イヌイットは、一九六〇年ごろにカナダ政府の政策で定住生活を始めた。彼らは住宅や病院、店舗などがある村を生活の拠点とし、そこから狩猟やキャンプに行き、また、そこに戻ってくるようになった。

現代のイヌイットは、クリスマスのようなキリスト教の行事や狩猟活動の季節的な変化をおもな節目として日常生活を営んでいるが、彼らにとって夏にキャンプに行くことは、生活習慣のひとつである。

夏が来れば思い出す

夏は、村から離れ、親しい仲間だけと解体作業をはじめた。二人のハンターは満面の笑みを浮かべながら作業を進め、ときどき、脂肪や肝臓の一部を口にすると、解体が終わると二人のハンターは肉と脂肪を折半にした。

それから二家族がいつしよに、今朝とつたホッキョクイワナの昼食をゆつくりと楽しんでから次の活動に移った。ブルーベリーなどの野イチゴの採集である。全員が各自、バケツをもち、野イチゴをつむ。一時間もするとかなりの分量を集めることができた。

朝からすでに一二時間以上が経過しているが、活動はまだまた続く。今度は、生まれたばかりの渡り鳥の雛の捕獲だ。雛は飛ぶことができないので、それを全力で走って追っかけ捕獲する。体力がいるが、子どもでも参加でき、楽しい活動だ。

午後一〇時すぎにキャンプ地に帰ったときには、体はくたくただった。待ちに待った夕食は、一方のテントに一〇名全員が集まり、神に祈りをささげた後、いろいろな話に花を咲かせながらとってきた鳥の肉を食べた。

真夜中でも外は明るく、食事が終わると子どもたちは外で遊ぶが、大人たちは無線通信でほかのキャンプ地の人たちと楽しそうに情報交換をする。就寝前には家族が集まり、無事であったことを神に感謝する祈りでその一日を締めくくった。

ともに過ごすことができる季節だ。夏が近づくとイヌイットは、昨年のキャンプを思い出し、今年はどこに誰とキャンプに行こうかと考えはじめる。

地上にまだ雪が残る六月ごろからキャンプに出かけはじめるが、短い人で一週間、長い人で三カ月間ぐらいをキャンプ地で過ごすことが多い。キャンプ地は、村から約三〇キロメートル以内の海岸線に集中している。

キャンプの一日

わたしが一九八四年に同行したキャンプ地は、村から船外機付きボートでこのような日々が、天気の良い日には毎日、繰り返された。これはイヌイットが望む生き方であった。

変化する夏のキャンプ

現代のイヌイットは生活に必要な物品を購入し、家賃や電話代を払うためには、賃金労働に励まなければならない。また、村には多数の人間が集住しているため、人間関係が多岐にわたったり、複雑になった。このように村は、彼らにとってストレスにみちた場所である。

現在も夏になると多くのイヌイットがキャンプに出かけるが、むかしと比べるとキャンプ地が村の近くになり、そこで過ごす期間が短くなった。この背景には、多くの人が仕事をもっており、長期間、村から離れられなくなったことや経費がかさむためにキャンプに行くことが困難になってきたことなどがあげられる。さらに、村で生まれ、村のなかで育った若者たちが、キャンプに行くよりも、村のなかでテレビを観ることやスポーツを楽しむことを好みだしたことも一因である。

さらに裕福なイヌイットのなかには、キャンプ地にキャビンを建て、自家発電の装置まで設置して、毎週末を過ごすような人びとも出てきた。彼らがキャンプ地で過ごすのは、村の喧騒とストレスか



イヌイットの夏キャンプ地の様子。
テントの近くでアザラシの肉を干している

ら逃れるためであり、必ずしもイヌイットの生き方を貫くためではない。グロ

バル化のもとイヌイットの生活は急速に変貌を遂げつつある。

夏をすぎたばかりの季節は、太陽がほとんど沈まない。朝起きると、まず、老夫婦とその息子、小さな孫娘、わたしは、今日一日を無事にすごせ、獲物にめぐまれますようにと神様にお祈りをした。それから乾パンと紅茶で簡単な朝食を終えると、となりの家族五人とともに二隻の船外機付きボートに分乗して、キャンプ地の近くに仕掛けてある漁網をチェックしてからアザラシ猟に出た。

島の沿岸にそってゆつくりとボートを走らせながら、アザラシが呼吸のために海面に頭部を出すのを探した。アザラシを発見するとその方向に、次はどこに浮上するだろうかと予測しながら全力で近づき、再び、呼吸のために浮上するのを待った。アザラシを次に見つけた人は「あそこだ、あそこだ」とその方向を指し示しながら大声でハンターに知らせる。このようにしながらアザラシに接近し、ラ

イフルでしとめた。
アザラシを捕獲すると近くの海岸に上陸した。すぐさまハンターはお茶を沸かし、砂糖を大量に入れた紅茶を数杯、時間をかけて楽しんでから、アザラシの